株式会社ティーティーコーポレーション

鋳造から仕上げまで。金型も自ら作る一貫体制が強み

納期相談 企画力自信有 コスト相談 オンリーワン技術 メイドインジャパン 試作可小ロット 量産対応

工場内は常に改革されている

業務内容

ダイカストを軸に完成品の仕上げまで

50年以上にわたってダイカスト製品の生産を手がけてきた。鋳造だけにとどまらず、金型も自社で設計、生産しており、機械加工や研磨・精密仕上げまで事業範囲に取り込んだ一貫生産体制を築いている。生産品目はさまざまな産業機械部品や医療機器部品、刃物部品など幅広い。建築部品を中心に自社製品も持つ。過去には高岸忠男社長のアイデアから、ボールが入ると「コトン」と音がするゴルフ場のティーカップも生み出した。製造現場ではロボットや3次元プリンターの活用も進んでおり、高岸社長が起業時から抱く「ものづくりへの欲求」が、常に社内に革新を促している。

自社製品の物干金物

強み

挑戦が技術の源流

金型の自社設計・生産により多品種少量ニーズに応えられることを競争力として受注を増やしてきた。設計現場のたたき上げでその経験を生かして技術力を高めてきた高岸社長は「失敗を重ねた回数だけノウハウがある」と言う。現場では常に新たな課題が生じるが、今は工場長が中心となり毎週の会議で確実に解決させ、ノウハウをさらに蓄積している。一方、毎年2件は特許を申請するほど自社製品の開発にも積極的に取り組む。音の鳴るティーカップは過去のものだが、複雑形状を得意とする金型技術から生まれたベランダ用物干は今も需要が堅調なヒット製品。こうした製品は生産ラインの平準化にも寄与することから「アイデアができたらとりあえず試作してみる」と笑う。

人材育成

技術講座で若手を底上げ

若い従業員の技術の底上げにも熱心だ。毎月1回、土曜日の午後に社員全員を集めて技術教育を実施。資格取得も積極的に促し、「自分の感覚」を磨くように指導しているという。さらに新技術を取り入れる〝ものづくり改革〟も積極的に進める。最近では金型設計に3次元プリンターを導入。図面担当者が金型製作用にカスタマイズしたソフトを使い、難しい部分を試作。起こりうるトラブルを確認し、改善してから金型製作に入るなど効率化を図っている。

今後の展望

労働者の減少をにらみ役割を拡大

「いい取引先に恵まれている」と高岸社長は言う。材料メーカーなどの紹介もあり、120社以上の取引先を抱え、常時このうちの20社から受注がある。これから労働者が減る中、最終加工まで担う同社の役割はますます広がる。社内では設備の改造によって省エネや環境対応に取り組み、ランニングコストも削減。毎年7000万円程度を設備導入に当て、平成26年には2台のロボット搭載機を含む、マシニングセンター5台、平成27年は2000万円の3次元測定器などを設備し、需要増への対応力を高めている。

COMPANY PROFILE 株式会社ティーティーコーポレーション

大阪27

当社の歴史

昭和39年に炊飯器の内釜の製造からスタートしました。昭和45年にはダイカストの金型設計から鋳造、加工、組立の一貫体制を確立。創業以来、生産の効率化を追求し、ロボットや加工設備の導入など技術改善に取り組んできました。仕入れ先、顧客、自社の「三方よし」を大切にしております。

ダイカスト製品の鋳造・仕上げに加え、金型の設計・製作まで社内で手がける一貫生産体制をとっています。

代表取締役 髙岸 忠男さん

■主な事業内容
アルミ・亜鉛ダイカスト製品製造、金型設計製作、加工、完成まで

■主な取引先（納入先）
（株）島津製作所、
（株）湯山製作所、
（株）島精機製作所など

住　所／〒599-8266
堺市中区毛穴町59
ＴＥＬ／072-273-1518
ＦＡＸ／072-273-2118
創　業／昭和39年9月
設　立／昭和45年9月
資本金／3,500万円
従業員／82名

http://www.ttc-tt.com/